特定非営利活動法人　野生動物救護の会　会報

RUNNER

Vol.39

＊目次＊

活動の現場 … 2

自然環境保全センターの
　近況報告（1月～2月）… 6

足環プロジェクト … 7

～On your side ～
人類のために翻弄される動物の立場になって。
人だけの物ではない地球の仲間だから。…… 8

2022年度事業報告・
　2023年度事業予定（案）…… 10

インフォメーション … 14

活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加した
ボランティアがその体験をもとにレポートしています。

特定非営利活動法人 野生動物救護の会 第15回定期総会の報告

今年度の総会が2022年6月25日13時30分より、厚木市保健福祉センター 4F 研修室にて開催されました。議長に会員の安井さんが選出され総会が進行されました。出席者と委任状の方を合わせて会員総数の60名より過半数となり総会は成立しました。

議事に入り、2021年度の決算報告及び会計監査の報告、2021年度の事業報告、それに2022年度の事業予定、2022年度の活動予算などが提案され、満場一致で承認されました。

H

自然発見クラブ「野鳥の羽根標本つくり」講座の報告

2022年8月20日に 神奈川県自然環境保全センター からの依頼で 羽根標本つくりの講座を開きました。参加者は、子ども3名と大人5名でした。今回はセンターからこの講座のために提供してもらったムクドリの羽根標本を つく ってもらいました。

最初に救護の会理事の安井さんから傷病野鳥の羽根標本をつくる理由や鳥の 体の部位ごとに異なる 羽根の呼び方 などを説明してもらいました。そのあと参加者1人 ずつ にムクドリの羽根を入れたビニ ー ル袋と台紙を渡して作業をしてもらいました。ムクドリの初列風切羽根、次列風切羽根、 三 列風切羽根、小翼羽、尾羽 は分別 して 、それぞれ ビニール 袋に小分けしておきました。参加者は簡単な 羽根の並べ方の 説明を聞いたあと、 ビニール 袋から羽根を取り出して台紙に並べて、木工用ボンドで貼り付けていきました。大人も子供もなかなか難しい作業でしたが、全員最後まで並べることができました。 最後に全員のつくった標本をテーブルに並べて比較しながら鑑賞しました。 羽根の色や模様の違いを見比べて、このムクドリは成鳥か幼鳥かなど意見を交わしました。

講座の終わり に センターに保護される傷病野鳥の保護原因について、令和3年度の傷病鳥獣 救護実績（神奈川県自然環境保全センター提供）のグラフなどを用いて参加者に説明をしました。 今回参加してくれた方たちが、 毎年多くの野鳥が人間の活動に関係した原因により負傷したり衰弱して保護されている事実を知って、少しでもその数を減らす 方法を考えたり野鳥たちを守る行動をするきっかけになったら良いと思います。

遠藤

動物フェスティバル in よこすか 2022の報告

コロナ禍で中止になることが多かったのですが、10月23日、久しぶりの動物フェスティバルのイベント開催となりました。会場は横須賀港に面したヴェルニー公園、すぐ目の前に米軍基地があり潜水艦や軍艦などが停泊、朝の8時にはアメリカと日本の国歌が聞こえ、私には非日常の風景の中でのイベントでした。各ブースが一列に並び、点在していた為、人が集まるかな？と危惧しましたが、救護の会のブースの目の前で行われた犬のトレーニングのデモストレーションの時間には多くの人が集まり、私達のブースにも興味を示してくれました。

ブースの入り口あたりに海ごみ関係のパネルを展示すると、思惑通り？メディアなどで最近はSDGSやマイクロプラスチックという言葉をよく耳にする為か、興味を示してくれる方も多くなったようです。家族で立ち寄る方も多くいました。お子さんと一緒にパネルを見ながら話をする姿も。私たちが捨てたゴミが鳥獣たちをどのような姿にしてしまうのか、写真を見つめるお子さんの真剣な眼差しが印象的でした。

興味を持ってもらいやすくなった今、このようなイベントで更に考えてもらう良い機会だと思う一方で、イベントが開催できるような、動物や自然のことを思いやる余裕のある世の中が続きますように。。。と願ってしまう、軍艦が目に入るいつもと違う雰囲気の中でのイベントとなりました。

森 紀美子

堀川小学校4年生 エコスクールの報告

今日は秦野市立　堀川小学校の４年生の子供たちとエコスクールを開きました。先生役は、獣医師の加藤千晴さんと救護の会スタッフ５名、タヌキのハヤタくん、フクロウのウィズリーくんでした。

はじめに加藤さんから子供たちへ「知っている動物の名前を教えて！」と声をかけると、すぐに何人かが手を上げてくれました。最初の男の子は「シカ！」と答えてくれました。後に続いた子供たちも「ネコ！」とか「ブラックバス！」とか哺乳類・鳥類の枠を超えて、さまざまな動物の名前を思いつく限り答えてくれました。加藤さんは子供たちの答えてくれた名前をもつ動物たちは、外国に生息している動物やペットなどの家畜動物、日本にもとから生息している野生動物に分けることができると説明しました。そして今日は、**日本の野生動物と人はどんなふうにかかわりあいをもったら良いか考えてね、**と子供たちに促しました。その後、少しだけ動物の動画を観てクイズをやって第１部が終わりました。

第２部は渡辺理事長の野生動物は人間とのかかわりあいの中で傷ついたり命を落としたりしているという、すこし難しいお話をしました。「なんで動物たちは傷ついてしまうのでしょう？」という理事長の問いかけに対して子供たちは「森の木を切ってしまうから！」とか「ゴミを（山や海に）捨てているから！」とか「ガラスにぶつかるから！」など真剣に答えていました。回答の内容も正しいものばかりでとても良く勉強をしているようでした。そのあとタヌキのハヤタくんとフクロウのウィズリーくんを囲んでふれ合いや質問タイムを子供たちと楽しみました。傷病鳥獣たちの翼標本もすこしもっていたのでそれらも手に取って色や感触を確かめてもらいました。翼標本を触った子供たちからは「ざらざらな羽根とフワフワな羽根がある！」とか「臭い！」とか貴重な感想をもらいましたが、やっぱり主役はハヤタくんとウィズリーくんでした。

エコスクールの最後に加藤さんが子供たちと野生動物たちとのかかわり方について質問応答の時間をもちました。子供たちからの質問の中には、「拾ったヒナを自分たちで育てちゃいけないの？」、「怪我をした動物を自分たちで飼ってはいけないの？」のような問もありました。もちろん、「野生動物を勝手に捕まえたり飼育したりすることはできません！」という回答をするのですが、「みんなの代わりに神奈川県自然環境保全センターが保護をして、大きく育つまで餌を上げたり、怪我の治療をするから大丈夫ですよ」と一言そえられないことが心残りでした。

遠藤順一

はだのエコスクール 西小学校の報告

2月7日、秦野市立西小学校3年生114名を対象に体育館を開放して環境教育（エコスクール）を行いました。

テーマは「野生動物と人間との共生」、身近にいる野生動物について皆で考えてみようというものです。 スライドを使っての講義の後は、６班に分かれ、触れ合いタイムに。傷病鳥獣として保護されたタヌキの「ハヤタ」君、フクロウの「ウイズリー」君を始め、野生動物の剥製、野鳥の羽根標本などを間近に見ながら、色々なことを学びとってもらえたと思います。 今回、初めて環境教育の場に参加したというボランティアさんから感想文が届いてます。 三輪早見

児童たちは、事前に野生動物についての学習を進めていたそうで、熱心にこちらの説明を聞いてくれ、質問にも積極的に手を上げて答えてくれました。６班に別れてからの説明では、１組の人数が多少多く感じました。もうすこし少ないグループのほうが、お互いに(子どもたちも自由に質問しやすく)やり易いかもしれません。まだ柔らかい子どもたちに、この野生動物を考える経験が与える影響は大きいと思います。人と動物の関係がもっとよくなっていくことを願っています。 山口菜穂

自然発見クラブ「身近な野鳥のための巣箱づくり」の報告

２月18日（土）10時から12時、神奈川県　自然環境保全センター　主催の自然発見クラブで巣箱づくり講座がセンター本館にあるレクチャールームで開催された。自然発見クラブでは、野外施設にある素材を利用した工作体験を通して、自然環境保全・再生や自然体験の大切さを学びます。

この日の参加者は定員20名に対し14名（子ども８名・大人６名でした。野生動物救護の会の遠藤さんに講師をしていただきました。巣箱を作る前に、①巣箱はなぜ作らなくてはいけないか、②街に住み着いた野鳥　（スズメ、ヒヨドリなどは巣を作る場所が必要、③自然の中で樹木にできた穴や岩のすき間を使って巣作りをする野鳥（スズメ、シジュウカラ、ヤマガラなど)、④良い巣箱の条件（出入りや巣の大きさが適当であること、水はけが良いこと、止まり木などは取り付けない、てん板が開かないようにする)、⑤巣箱の材料（スギの木の野地板を使う）と巣箱の寸法などを教えていただきました。それから、巣箱の 作り方の説明や注意点を聞いて、手元の巣箱組立手順書（イラストで子どもが理解できるように工夫）を見ながらさっそく作業に取りかかりました。ひとり１つずつ自分の手で巣箱作りに挑戦しました。巣箱材料セットの中のうら板、よこ板（左・右)、おもて板、底板の順に、クギを打って組み立て、てん板は開閉できるようにちょう番を付け、てん板を本体にネジで固定しました。組み立てた巣箱に好きな絵を絵具で描いて完成させました。クギがうまく打てないなど少し苦戦した場面もありましたが、みなさん時間内に、無事完成させました。完成させた巣箱はテーブルに並べて比較しながらみんなで鑑賞しました。子どもの想像力は豊かで色とりどりでした。最後に遠藤さんから巣箱のかけかた　①時期：12月から３月上旬、②場所：前が開けた見通しの良いところ、③樹木に取り付ける時：針金は木を傷つけるので使わない。ショロ縄を使う）と、かけた後の注意点①鳥が巣箱に来るようになったら巣箱をさわらない、②冬が来るまで巣箱を開けない、③巣立ったヒナを見つけても近づいたりさわったりしないなどを教えていただきました。完成した巣箱は、みなさん、家に持ち帰りました。 家の近くに巣箱をかけて、鳥がはいってくれるといいですね。

おわりに、野鳥観察会と巣箱づくりは愛鳥教育としてよく行われます。今回、行った巣箱づくり講座が愛鳥（野鳥を大切にし、守ろう！を考えるきっかけに少しでもなれば良いと思います 。

小野

さがみ自然フォーラムへの参加報告

令和５年２月９日から 13 日まで厚木市アミュー５階で開催された、「さがみ自然フォーラム」に参加してポスター展示をおこないました。今年は野生動物が傷ついたり病気になったりする原因と野生動物救護の会の活動紹介、自然環境保全センターで実施している野生動物の生息調査に結果などについて展示をしました。来場者からは自然環境保全センターの傷病鳥獣保護事業について再開の状況や今後の見通しなどに関する質問や早く以前のように受入を始めてほしいなどの声をかけていただきました。参加した救護の会スタッフは、一般の方たちの野生動物や傷病 鳥獣保護活動への関心の高さを知ることができて、会のボランティア活動を続けてゆくためのパワーをもらうことができました。

遠藤順一

お知らせ

神奈川県自然環境保全センター本館 2F ブナの森ギャラリーにて「にゃーちゃんの冒険」と題して絵本を紹介しています。

「にゃーちゃんの冒険」はネコの完全室内飼いを訴えたものです。保全センターの傷病鳥獣保護記録を通じていかに野鳥へのネコの被害が多いかを訴えています。

絵本はサントリー世界愛鳥基金助成金による絵本作成事業「猫により傷つく野鳥を減らすための普及啓発活動用」で作製されています。（当会の会員の皆様には４月末頃を目途に配布の予定です〜楽しみに待っていてください）

展示にはほかにも傷つく野生動物たちの現状を展示しています。よかったら見に来てください。

期間：４月１日（土）〜６月 26 日（月）

自然環境保全センターの近況報告（1 月～2 月）

この頃（この原稿を書いている 3 月下旬）、雨が続いて気温もすこし低めになって春らしい陽気です。センター敷地内やまわりの山肌には桜の花のピンク色が見られるようになってきています。昨年９月末に発生した悲しい事件から６カ月の時が経過しようとしていますが、未だに複雑な気持ちを抱えていらっしゃる会員の方もおられると思います。しかし、センターの傷病鳥獣保護事業は新しく動き出す準備を始めています。会員の皆さんに最近の状況をお知らせしたいと思います。

鳥カフェと名付けられた大型野外ケージは、ご存じの方も多いと思います。センターを訪れた一般の方が飼育されている傷病野鳥の様子を観察できるようになっていて、いくつかある野外ケージの中でも目立つ存在でした。新しい運営体制の準備のためにほとんどの野外ケージを取壊すことになり、鳥カフェもセンター職員が中心となり、高所の作業に慣れている数名のボランティアさんの手もお借りして解体されました。現在はきれいに整地されています。

ネットと屋根を外された鳥カフェ

センターで保護中のタヌキ（♂）

センターは１月の下旬から哺乳類に限り傷病動物の受け入れを再開しました。現在は 2 月 5 日に持ち込まれたタヌキが 1 頭だけ保護されています。ひどい疥癬症に罹っていましたが、治療を受けて身体をおおっていたかさぶた状の硬い皮膚はほとんど落ち、少し体毛も生えてきました。早く山に帰れると良いですね。

足環Project!!

足環プロジェクトとは

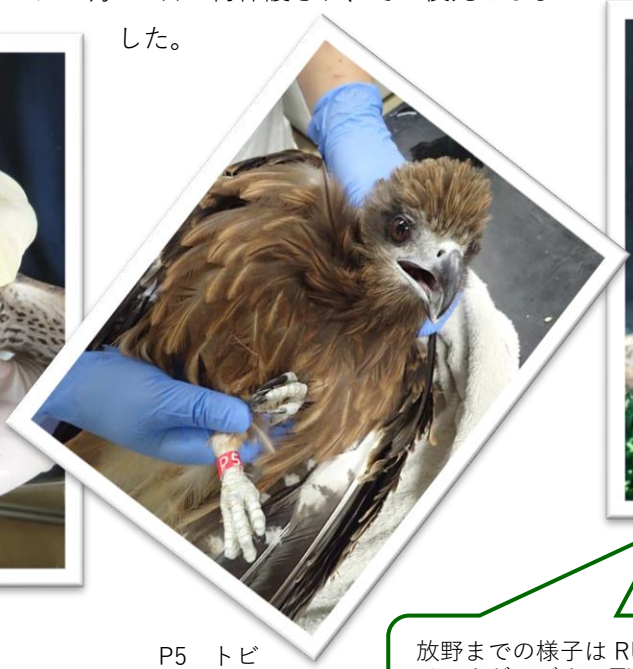
足環を付けた放鳥個体が野外で発見もしくは再捕獲等されることでその個体の生存年数、移動範囲・距離などを知る為の活動です。
詳しくは「RUNNER」vol.16 を御覧下さい。

2023 年春号　　放野一覧

足環番号	種名	放野日	放野場所
P3	トビ	2022/5/30	平塚市
P4	チョウゲンボウ	2022/7/5	相模原市
P5（右）	トビ	2022/8/8	平塚市
E2	チョウゲンボウ	2022/10/26	秦野市

※P3 のトビは 6 月 21 日に再保護され、その後死亡しました。

P4 チョウゲンボウ



P5　トビ

E2 チョウゲンボウ
※E2 上下反対につけています

放野までの様子は RUNNER_vol38
チョウゲンボウの飛行訓練(M プロジェクト)
をご覧ください

(写真提供：神奈川県自然環境保全センター)

★こんな足環をつけた野鳥を見かけたら下記まで連絡してください★

【NPO 法人 野生動物救護の会】
Tel : 0463-75-1830 e-mail : wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp
【神奈川県自然環境保全センター・自然保護課】
Tel : 046-248-6682

鳥の詳しい情報はこちらに載せています。
（放野の光景を動画で見ることができます）
ブログ URL ： http://blog.goo.ne.jp/yaseidobutsu-kyugo

～ On your side ～

人類のために翻弄される動物の立場になって。
人だけの物ではない地球の仲間だから。

ボランティア歴 21 年目の伊熊さんがボランティア活動をしながら

日々思うことを文章にしてみました。

ランナーを応援し読んで下さっている皆様、いつもありがとうございます。そしてお久しぶりです。新型コロナという感染症が世界を席巻し社会を激変させ歴史にその名を残す事になりいつ収束するか先が見えなくなっていましたがどうにか安定し始めました。

医療従事者はパンデミックが始まった頃から既に予測は出来ていて本当に全てが落ち着くまで数年はかかるね、収束なんてしないよねと話していました。トランプ元大統領がチャイナウィルスと連呼してはばからず最初は手の打ちようが無かった新型、いやバリアンス＝異形のこのウィルスは人ばかりではなく環境や動物たちにもとてつもない影響をもたらした事は言うまでもありません。

新型コロナがじわじわと人の上に立ち始めた頃まず思ったのがこのウィルスが動物から発生した物ではありませんようにという事だった。もしそんな事実が明らかになろうものなら原因になった動物は恐らく片っ端から殺処分され感染した違う種の子達も無差別に殺されまくっていたに違いないのである。いつかのランナーでも書いたが人間だって感染症は持っているしバラ撒いてもいるが擁護される。それに反して動物たちは感染源とわかるや否や問答無用の皆殺しという、私にとってはどうしても納得が行かず受容する事やもちろん仕方がないと思う事さえ出来ない。理不尽過ぎるし人間の身勝手にも程があるだろう。

思い出すのさえ嫌な昨年のセンターで起きた殺処分、それに当たった方々の苦悩と悲痛な思いは察するにあまりあるしやむを得ない事だったかも知れない。あくまでも、かも、である。

では感染させたのが人だったらどうか。生殺与奪の行き先、それはやはり動物たちに悲劇が降りかかって来たのではないだろうか。

在宅やリモートワークのためストレスがたまるのは理解できるがそれを癒やすために動物を家に迎え入れる人達が増えたというニュースが流れた時に眉をひそめた。その子たちを抱っこして嬉しそうにしている映像を見てあら可愛い、良かったね、や、こんな子がいたら家の中が明るくなるんじゃないなどと言っているのをテレビなどで観て楽感的にニコニコするなど到底出来なかった。ランナーを読んでいる皆さんには私が何故そう思うのか予測がつくのではないだろうか。悪い予感は既に香港では始まっていたし日本でも間も無く現実となった。メディアでそれを大々的に取り上げはしなかった。もちろんそんな人達は一部なのだろうと思いたい。

そしてコロナパニックがワクチンの普及によりようやく鎮火する兆しを見せ、先が見え始め世界中が元気を取り戻しつつ前進に向けて顔を上げ手足を伸ばし準備体操をしながら外に出ようとしている時に始まった、プーチン戦争即ちウクライナ侵攻である。私はロシアによる侵攻とは言わずプーチン戦争と呼んでいる。あのロクでも無い独裁者が勝手に始めた侵攻？いや、それが侵略や戦争でなく何であろう。話は少し政治の事になるが、独裁国家というのは大概血縁者によって成り立っていて身内と言えど反対派は弾圧される事実は歴史が証明している。疑わしきは捕らえよで正に問答無用だ。
プーチンはとにかくロシアの法律を自分本位に都合良く変えて来た。反対する権利を与えず富を独占し玉座に居座り続けた成れの果ての最悪な結果がウクライナ侵攻である。これについては国連と常任理事国にまで話を発展させないといけなくなるので置いておこう。
いずれにしても今も多くの人たちが苦しみと悲しみの中で必死に生きている、そんな状況に少しでも何か出来る事としてウクライナ募金の箱を見る度に寄付をしている。しかし飼い主を殺されて家に取り残された動物たちや野生動物、また彼らを助けようとする人々への義援金箱というのは見た事がない。何故なのだろう。民間人の殺害の傍らでその家にいた動物たちの中には一緒に殺された子も絶対にいたに違いない。例として一頭だけで庭に取り残された犬がいたためボランティア団体が保護をしようと近づくと牙を剥きけたたましく吠えて飛びかかるので手の出し様がなくひとまずそこを後にしたという。何日かが経過しその子の心が落ち着き、空腹に耐えなければいけなくなった時に救いの手を再度伸ばしてくれる事を願ってやまない。しかしこんな例は氷山の一角なのであろう。
動物たちが置き去りにされた事実は恐らく数えきれない程だろう。羽繕いをしている鳥たちが流れ弾に当たったり不意に爆撃を受けて命を落としていると思うと本当に胸が痛むのだが、そんな子たちを助けるあるいは侵略を止めるなどは自分などでは不可能でありどうしようも出来ず無力感と悲痛な思いを持て余すだけで。。。

ランナーでいつもテーマにして来た、動物たちだって地球の一員なのだという事。人間中心の価値観で動物や環境をないがしろにする様な事は絶対にあってはならないと思う。メディアも被害者は人だけではない事をもっと発信し動物を家族としていたり家畜を持つ場合、様々な災害が降りかかって来た時に彼らを助けられる何らかの最低限度でいい、予めそんな対策や手法を持っておく事が必要なのではあるまいか。そんな意識付けをその力で広めて欲しいと思う。
動物園にいる子たちを安全な場所に移すための作業をしていたスタッフが数人亡くなったというニュースを観た時に涙が止まらなかった。尊く立派な行為。手伝いに行きたかった。スタッフは動物園という檻、の中から逃げる術を持たない動物たちの命にどんな時でも守り責任を持つ事は使命であり自己保全のため動物を放り出すなら最初からスタッフなどになるな、また動物園は閉じるべきだと思う。そんな人達ではなかったからこそ命をかけて守るために救出にあたったのではないだろうか。また映像で流れて来た、岩の上にポツンといた一羽のカモ、噴煙が立ち上る空を飛ぶ鳥たち、戦車が通る草原で巣を作り生活していた動物たち、、、誰も死んではいけない。何としても生き延びて欲しい、お願いだからとそんな現地の様子を見て何度思った事だろう。不遇なここ何年か、さらにウクライナ侵攻が止まない中で犠牲になっているのは人だけではなく多くの生き物たちもいるのである。

ここ何年かの地球規模の激変で様々な制約や不自由などを余儀なくされて来ました。自分の事だけで精一杯だという人々も多くいらっしゃるでしょう。そんな中、どうにか安定した生活を維持している自分は幸いですしだからこそ人以外の事＝生き物たちと環境についてこれからも何か活動をしようと考え今実行している事を継続して行くつもりです。またそれらに関わる人たちを応援し資金への手助けなども始めたい。
一昨年、余命を考えなければならない病気になったと思った診断名を告げられましたが医学の進歩は目覚ましく、今も元気でいます。その事に感謝し少しでも美しい地球の保全のため力を注いで行きたいと思います。
ランナーを読んで下さる方々と共に一緒に何かを共有、共感、共鳴出来る事を心から願っています。

コロナ禍、ウクライナ侵攻禍中でもやはりテーマはただ一つ。
～ Ｏｎ　your　side ～　人類のために翻弄される動物の立場になって。人だけの物ではない地球の仲間だから。

2022 年度事業報告
2023 年度事業予定(案)

2023 年度が 4 月よりスタートして早くも 2 か月が過ぎようとしています。長く苦しめられた新型コロナウィルス感染症は5月より季節性インフルエンザなどと同じ「5 類」に移行し、行動の自由度も格段に上がったように思います。世間では様々なイベントが再開され、旅行などの制限もなくなり多くの人たちが外出し春から初夏の季節を楽しんでいる姿が多く見受けられるようになりました。いよいよアフターコロナの世界が始まったことを実感する日々です。

それに伴い、本年度からは弊会もほぼ通常通りの活動を再開させることができる見込みとなりました。コロナ禍でも継続して行ってきた衝突調査、痕跡調査や樹洞性哺乳類・鳥類調査などの調査活動はもちろん、各種イベントへの参加や体験教室・探鳥会の開催など、多岐にわたる活動を予定しています。会員の皆様には都度お知らせいたしますので、その際には是非ご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。

6 月に予定されている定期総会では、昨年度の総括や今年度の事業内容についてご意見をいただきたく、ここに前年度の活動報告と今年度の活動予定を掲載します。皆さまには是非目を通していただき、ご検討をお願い致します。

2022 年度 NPO 法人野生動物救護の会 事業報告

1. 傷病鳥獣救護の直接的事業

傷病鳥獣の救護ボランティアの推奨	通年	自然環境保全センター
M プロジェクト（猛禽類のリハビリ）	通年	プロジェクト参加者自宅

2. 救護ボランティアを養成する事業

野生動物救護ボランティア講習会	中止	自然環境保全センター
野生動物救護ボランティア講習会修了式	中止	自然環境保全センター

3. 主に会員を対象とした啓発事業

探鳥会	中止	近隣各所
野生動物痕跡調査講習会	中止	自然環境保全センター

4. 主に市民を対象とした啓発事業

企画展示　ブナの森ギャラリー 「野生動物救護の会　活動」	9 月～10 月	自然環境保全センター
秦野市民まつりへの参加 動物フェスティバル 動物フェスティバルかながわ in よこすかへの参加 さがみ自然フォーラムへの参加	11 月 3 日 10 月 22 日 10 月 23 日 2 月	秦野市カルチャーパーク 横須賀市ヴェルニー公園 アミューあつぎ
環境教育 はだのエコスクール はだのエコスクール はだのエコスクール	 10 月 14 日 12 月 16 日 2 月 7 日	 山辺保育園 堀川小学校 西小学校

5. 情報発信的事業

会報誌ＲＵＮＮＥＲの発行 Vol.37 Vol.38	 4 月 12 月	
ホームページの運営　会員への情報発信	通年	野生動物救護の会事務局

6. 調査･観察的な事業

秦野市立図書館衝突調査	4 月 22 日、5 月 27 日 6 月 24 日、7 月 29 日 8 月 26 日、9 月 30 日 10 月 28 日、12 月 2 日 1 月 17 日、1月20 日、 2 月 24 日、3 月 31 日	秦野市立図書館
羽根標本等の標本作成	年数回	自然環境保全センター
樹洞性哺乳類・鳥類調査	通年	自然環境保全センター
野生動物痕跡調査	通年	自然環境保全センター
足環プロジェクト	通年	自然環境保全センター

7. 関係団体との協働的事業

丹沢大山ボランティアネットワーク総会	書面開催	自然環境保全センター
丹沢大山ボランティアネットワーク講演会	中止	自然環境保全センター
丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会	4 月 5 日、6 月 1 日、 9 月 7 日、12 月 7 日、 3 月 1 日	自然環境保全センター
傷病鳥獣保護連絡協議会	3 月 15 日	自然環境保全センター
自然発見クラブ　野鳥の羽根標本づくり 野鳥の巣箱づくり	8 月 20 日 2 月 18 日	自然環境保全センター 自然環境保全センター

8. 運営的事業

ＮＰＯ法人　野生動物救護の会定期総会	6 月 25 日	
救護の会の事務的管理（名簿・会費・物品など）	通年	野生動物救護の会事務局
野生動物救護の会の理事会・スタッフ会議	随時	自然環境保全センター
傷病舎大掃除	中止	自然環境保全センター

9. 各種助成金による事業

サントリー世界愛鳥基金助成金による絵本作成事業 「猫により傷つく野鳥を減らすための普及啓発活動用」	
緑を育む集い助成金事業	自然環境保全センター
丹沢大山自然再生委員会調査・研究助成金	自然環境保全センター

2023 年度 NPO 法人野生動物救護の会 事業予定(案)

1. 傷病鳥獣救護の直接的事業

傷病鳥獣の救護ボランティアの推奨	通年	自然環境保全センター
M プロジェクト（猛禽類のリハビリ）	通年	プロジェクト参加者自宅

2. 救護ボランティアを養成する事業

野生動物救護ボランティア講習会	検討中	自然環境保全センター
野生動物救護ボランティア講習会修了式	検討中	自然環境保全センター

3. 主に会員を対象とした啓発事業

探鳥会	年数回	近隣各所
野生動物痕跡調査講習会	年数回	自然環境保全センター

4. 主に市民を対象とした啓発事業

企画展示	4 月～6 月	自然環境保全センター
誤認保護防止のためのチラシ配布	未定	伊勢原市立総合運動公園
よこすか動物フェスティバルへの参加 秦野市民まつりへの参加 動物フェスティバルかながわへの参加 さがみ自然フォーラムへの参加 その他のイベントへの参加	未定 未定 10/22 2 月頃 随時要請あれば	
各種要請による講演	随時	各会場
環境教育 学校からの要請による環境教育	随時	各学校等

5. 情報発信的事業

会報誌ＲＵＮＮＥＲの発行	年数回	
ホームページの運営　会員への情報発信	通年	野生動物救護の会事務局

6. 調査・観察的な事業

秦野市立図書館衝突調査	月１回程度	秦野市立図書館
羽根標本等の標本作成	年数回	自然環境保全センター
樹洞性哺乳類・鳥類調査	通年	自然環境保全センター
野生動物痕跡調査	通年	自然環境保全センター
足環プロジェクト	通年	自然環境保全センター

7.　関係団体との協働的事業

丹沢大山ボランティアネットワーク総会	書面開催	自然環境保全センター
丹沢大山ボランティアネットワーク講演会	未定	自然環境保全センター
丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会	年数回	自然環境保全センター
傷病鳥獣保護連絡協議会	未定	
自然発見クラブ　野鳥の巣箱づくり	2 月予定	自然環境保全センター

8.　運営的事業

ＮＰＯ法人　野生動物救護の会定期総会	６月 25 日	
救護の会の事務的管理（名簿・会費・物品など）	通年	野生動物救護の会事務局
野生動物救護の会の理事会・スタッフ会議	随時	自然環境保全センター
傷病舎大掃除	未定	自然環境保全センター

9. 各種助成金による事業

丹沢大山自然再生委員会調査・研究助成金	自然環境保全センター

インフォメーション

定期総会

◆第 16 回 NPO 法人　野生動物救護の会　定期総会

▽日時：6 月 25 日（日）

▽場所：神奈川県自然環境保全センター　レクチャールーム

イベント

◆本町小学校　エコスクール　6/27 （火）

◆山辺保育園　エコスクール　10 月予定

◆動物フェスティバルかながわ

▽日時：2023 年 10 月 22 日（日）

◆探鳥会　数回開催予定

衝突調査

◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時　毎月最終金曜日　→今後の調査日は 2023 年 6 月 30 日、7 月 28 日、8 月 25 日

▽場所　秦野市立図書館

☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査を一緒に行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を！

“救護の会　ブログ“　更新中です！

◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介！

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景（M project　）、各種イベントのお知らせや報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページの「救護の会ブログ始めました！」のバナーをクリックしてご覧下さい♪

アドレスはコチラ→ http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html

＊詳細は当会ホームページをご覧ください＊

☆★会員へのお誘い★☆

当会は、設立趣旨にご賛同頂きました皆様方の会費によって運営されております。

どなたでもご参加いただけます

★一般会員：年会費 2,000 円

★学生会員：年会費 1,000 円

私たちの活動を支えて下さる賛助会員も同時に募集しています

★賛助会員：年会費　法人一口 5,000 円/個人一口 3,000 円　一口以上

【振込先】　ゆうちょ銀行振替口座　：　00270-0-47040

名義　：　特定非営利活動法人　野生動物救護の会

発行月：2023 年 5 月　発行：特定非営利活動法人　野生動物救護の会　電話：0463-75-1830
〒259-1306　神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4　ホームページ：http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/
編集者　平沼亜矢子　森紀美子　神崎さつき